

19 物部川水系流域治水プロジェクト

物部川水系流域治水プロジェクトにおける3つの目標

従来治水

気候変動の影響により、2040年頃までに現状と比較して

洪水規模 2割増
洪水頻度 2倍に

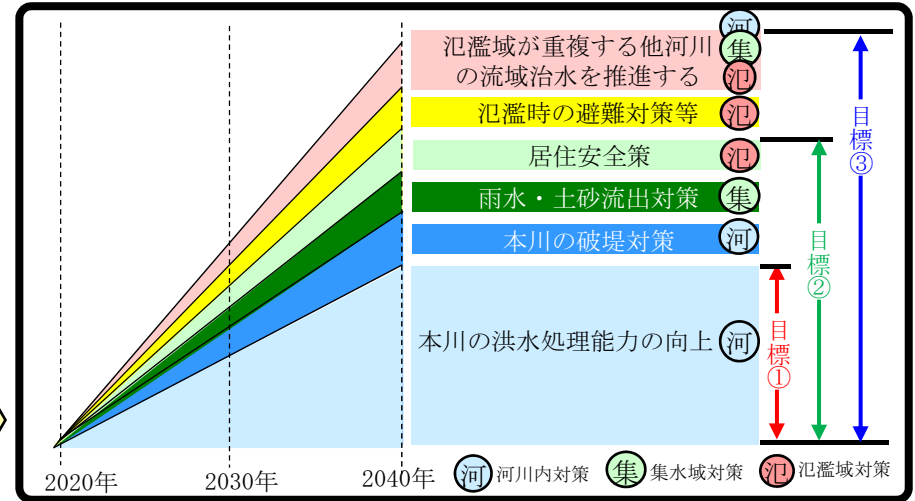
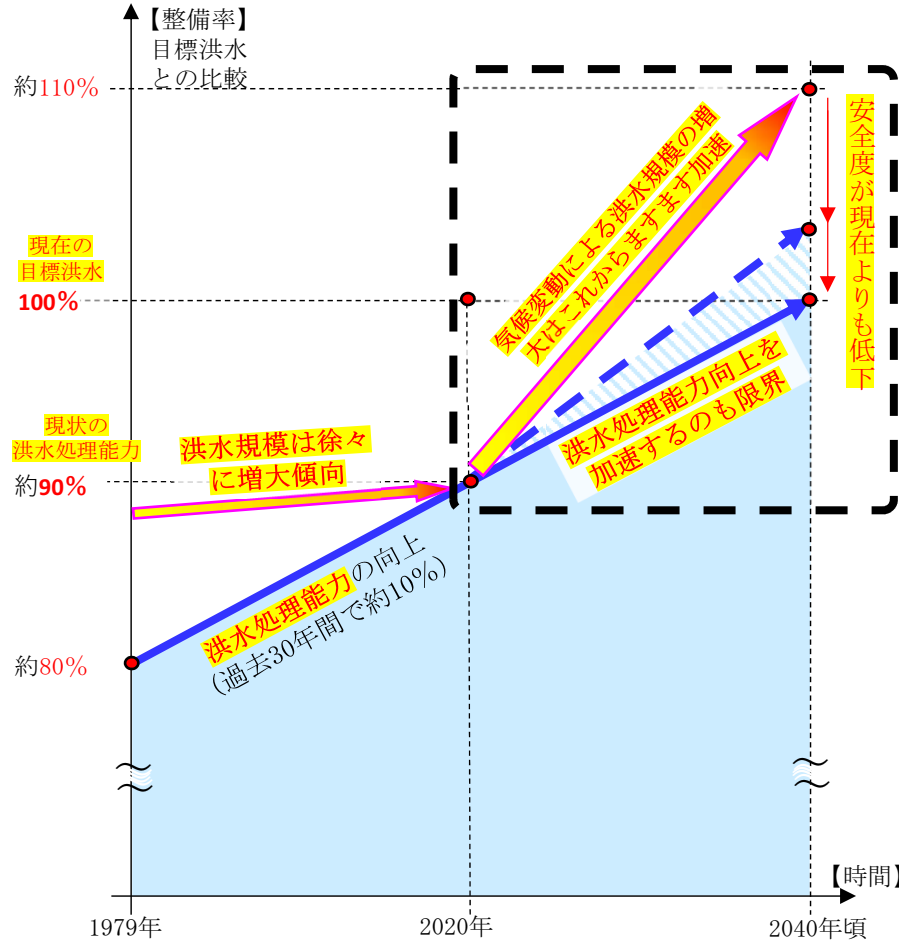
>

河川のみによる洪水処理能力 2割未満の増

流域治水

あらゆる関係者が治水に参画することにより、2040年頃までに現状と比較して

総合的な洪水処理能力 2割以上の増
総合的な洪水被害量 半減以下



2040年頃までの物部川水系流域治水の目標

- 【未然防止策】のみの単独目標
目標① 本川の洪水処理能力を2割増
- 【未然防止策】 + 【居住安全策】の複合目標
目標② 危険な場所・建物に住む人を半減
- 【未然防止策】 + 【居住安全策】 + 【避難安全策】
からなる流域治水の総合目標
目標③ 危険な場所・建物に住む人のうち安全に避難できない人を半減

「できるだけ氾濫させない」ことを目指すが、過去の整備速度を考慮すると達成困難か

そこで、「氾濫することを前提に、危険なところには住まない」対策もあわせることにより、被害半減を目指す。それでもまだ気候変動の影響には追いつかないおそれ

さらに、「氾濫時に命だけでも守るために、避難の安全性を確保する」対策もあわせることにより、被害半減を達成する

※1 目標洪水とは、戦後最大であるS45.8洪水

※2 整備率は、〔直轄区間の各区間の流下能力÷各区間が受け持つ洪水流量〕の全区間平均